

2024 年 6 月 17 日

学校法人三幸学園
東京ビューティー&ブライダル専門学校
校長 清水 智之 殿

学校関係者評価委員会
委員長 横山 耕太

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 横山耕太 (飛鳥未来きずな高等学校立川キャンパス キャンパス長)
- ② 小又哲久 (株式会社ガモウ 立川支店長)
- ③ 新井敏之 (株式会社アライ写真館 代表)
- ④ 矢崎唯 (第 3 期卒業生) 当日欠席

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024 年 6 月 17 日 (会場 東京ビューティー&ブライダル専門学校 702 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 東京ビューティー＆ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 藤森淳子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 横山耕太

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、美容・ブライダル分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョン、ウェディング分野の「最高の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、美容分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材」を育成する人物像とし、ウェディング分野としては「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

2023年度は、美容分野・ブライダル分野で必要とされる新社会人としての育成に伴い、ルール・マナーの大切さをあらためて理解をさせ、誰からも愛される人材を育成するために、あたりまえのことをあたりまえにできるよう教員の意識統一を行った。マナーとして最低限である、挨拶・清掃・時間の管理という項目に重点を置き、全教職員認識統一のもと教務運営を行ったが、全体の教務上では、授業状況や就職内定結果等を見ると、課題が残る結果となった。しかし、退学率は前年度よりも割合が低くなったため、教務運営と退学率の関係性について、今後きちんと見直していく余地があると感じられた。

② 学校関係者評価委員会コメント

横山委員(美容科)

高校分野でも課題としている項目である。通信制高校の学生は自由度が高いため、自由でありながら指導をすることに課題があるように感じている。清掃をしたことがないという学生もいるので、何のためにやるのか目的から指導をしている状況である。

小又委員(美容科)

美容室のスタッフ育成に悩んでいるサロンの特徴としては、採用が上手くいっていないところが多い。特に

個人店や中規模サロンにそのような様子が伺える。やっと採用ができた分、オーナーは指導の難しさを感じているようだ。オーナー世代のアシスタント時代の基準・やり方が当たり前ではないため、時代に合わせた対応を行っている。技術練習に対しても指導を受ける時間や手当などの、指導にスムーズに行かないようだ。

新井委員(美容科)

学生が写真館で履歴書の撮影で利用することがあるが、コミュニケーションにおいてこちら側が気を使う場面がある。どんな言葉がけで傷ついたり気分を害したりするのかわからないので対応には気をかけている。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	3
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

教育理念や育成人材像については、各美容分野・ブライダル分野で、生徒・保護者様に入学前からのオリエンテーションにて周知をしている。

各分野のニーズに必要とされる人材像の周知や指導は、日頃の就職対策の授業内でも行っているが、個々に身に着けさせるための知識習得や実践については、外部等への幅も広げ周知することも必要とされる。

② 今後の改善方策

学校の理念・教育目標を理解いただくためには、保護者様との関係構築を深めていくことが必要となるため、入学前のオリエンテーションに留まらず、今まで以上に保護者様への連絡を密にすることや、行事観覧のご案内や、各学科・コースでの学びなどを共有していく。

また、生徒自身の将来像を明確にさせるためにも、学外の学びを多く経験させるために、外部企業のガイダンスや各業界事情が分かる授業の導入を進めていく。

③ 特記事項

2023年度 3月入学前オリエンテーション・保護者会実施
5月美容師免許取得コース入校式実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

小又委員(美容科)

美容室(サロン)と専門学校をつなぐことができたらと考えている。今後もサロンの紹介(特別授業や講師紹介)などを行い、ガイダンスなどの協力することにより、生徒に職業の魅力が提供できればと考えている。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

労務上では、人員不足により業務の個々の負担が大きくなってきている。また、人材育成・個人のスキルアップ向上も必要となるため、まずは現在の業務の見直し（不必要なものの精査）の対応を行う必要がある。

システム化等による業務の効率化については、以前と変わらずの状況であるため、人手不足である現状に、システムの活用を積極的に行うことが必要である。

②今後の改善方策

労務上では、早急な人員確保が求められる。また、個々のスキルの把握をし、業務過多とならないよう、業務配分を適切に行う。

システムの活用については、管理・時間短縮・高い精度のものについては、全教職員が活用できるよう、導入の仕方の工夫や、早急な活用開始の対処を行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

小又委員（美容科）

美容業界の人員不足は、どのサロンにも顕著にあらわれている。現代の学生は就職口が選べるため、早期で希望する企業を確保する働きかけが必要と感じる。今までは新卒採用を積極的に行っていなかった美容ディーラーやメーカーも新卒採用を開始し、新卒採用は順調となっている。

また、サロンでも今まで行っていなかったインターンシップからの採用も、現在チャレンジしているサロンが多くなってきている。

新井委員（美容科）

自身が大学生の時には、卒業と同時に大学の教員採用の募集があった。専門学校のため難しいところはある

かと思うが、学生の卒業時に教員の採用の打ち出しをしてもいいのではないかと思う。

横山委員(美容科)

教職員の新入職メンバーへの対応については、一旦相手にどう伝わるか考えてから声をかけるようにしている。すぐに完璧を目指す必要はないことを伝え、経験を増やしていくことを重視して育成を行っている。職員の定着が生徒のためであることを考えると、ゆっくりでもいいのでできることを増やしていき定着につなげられるよう働きかけているが、育成＝人材確保にはつながっていない状況ではある。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

教員の教務力、技術指導、授業対応の質向上が必要とされる。

教育理念である 技能と心の調和が念頭にありながら、現代のZ世代の生徒にあった技術指導や授業対応ができるスキル、教職員の技術力・授業力の向上が必要。また、現代ではあたりまえとされる ICT 教育（デジタルテキスト・VR 授業等）の受け入れも含めた、現代の教育を教職員自ら学ぶといった心持が必要とされる。

② 今後の改善方策

全体会議や各教科会にて、全教職員の認識統一をより深めていき、教務力向上においては学園で行われている WEB 教務研修等に参加いただく。また、現代の教育、生徒が置かれている現代を知るために、外部講師による教務研修を行い、教員としての意識を深めていただく。

ICT 教育に関しても苦手意識を持つ教職員が多いため、ICT の利点を認識するために、実際に外部講師からの ICT 教育の研修を行い、理解構築を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

横山委員(美容科)

国の教育要領で定められているため、高校では ICT 端末を一人一台持っている状況。教科書は紙媒体であるが、レポートの提出から課題添削まで全て ICT 端末で行っている。だが、先生が使いこなすことの難しさも実感している。生徒が柔軟に IC 端末を使いこなせているので、先生の勉強の必要性がある。

小又委員(美容科)

大多数のサロンでは顧客管理をデジタル化としているが、ICT(VRやデジタルテキスト等)を利用した技術教育を行っているところは現在でもかなり少ない状況となっている。

しかし、美容室でのカウンセリングでCTを利用している店舗があり、セット面の鏡がデジタルミラーになり、お客様の髪型をロングにしたときのイメージや、カラーリングの完成イメージを実際に提示しながらカウンセリングできるような商材もできている。サロンでの接客方法も今後変わっていくように感じている。

新井委員(美容科)

写真館では紙媒体(通常の写真現像)も残っているが、ほぼ通常がデータでの受け渡しとなっているため、現在ではプリントをするとオプション料金をいただくという形態に変わっている。祝事の撮影に関しては、未だに紙にこだわっているが、携帯で見るという風潮になってきていると感じる場面がある。

学生の就職活動では大手企業の履歴書は紙ではなくデータに変更されているので、ほぼデータ対応となっている。デジタルにすることで業務は早くなったが、デジタル技術を覚えていかないと仕事ができなくなっている現状がある。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

今年度は昨年度より退学率の低減を図ることはできたが、それに反し、ルールの遵守や高いコミュニケーション力の習得ができていたかという点、その点は大きな課題となり、実際のインターンシップや就職内定等にも影響している。

また、卒業生全体の状況を把握できていないことから、更に情報が得られる仕組み作りや、卒業生の活躍を在校生が知り得ることができる取り組みが必要である。

② 今後の改善方策

生徒がルール・マナーの遵守ができるべく、全教職員が同じ指導ができるよう、全体会議にて提示した教務方針について継続した共有を行っていく。全教職員への共有・認識統一が難しい現状があるが、SNS 連絡ツールを利用して、現状の学校状況やクラス・生徒状況の発信を定期的に行い、認識持ってもらう工夫を行う。また、生徒のコミュニケーション力・対応力を向上すべく、グループ担任制とし、多数の教職員との関わりを増やす機会をつくる。

卒業生については、卒業生 SNS を通して学校の取り組み等を共有し、実際にスポットでの技術授業や就職ガイダンス、オープンキャンパスでの技術披露などに協力を促し、卒業生との連携を強化していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

横山委員（美容科）

対人コミュニケーションについては通信制高校では苦手な学生は多い。一度自分と合わないと感じる人がいると卒業までずっと関わらないこともある。今後ボランティア活動の場を設けるなど、関わる人数を増やしていく予定ではある。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2

① 課題

現代の生徒にあった対応・指導が必要とされる中で、先生と生徒の距離が近く、相談しやすい環境でありながらも、ルール・マナーなどの規律を遵守させなければいけない指導の難しさが近年課題となっている。

また、精神的なもの、対人関係の悩みで、学校を休みがちになる、退学・休学をする生徒が多くなる中での、多様な対応が必要とされる。

② 今後の改善方策

様々な家庭環境が多くなる中で、生徒の変化や状況共有については、早期の対応や保護者との連携がさらに必要となるため、電話がけ対応や面談のために保護者様に来校を促すようにしていく。

生徒がどの教職員にも相談しやすいように、グループ担任制を導入し環境づくりをする。また、講師との連携を図るため、今までよりも教科会を定期的開催し、生徒の情報共有をしていく。卒業生への支援については同窓会 LINK を活用し独立支援制度の案内や中途採用情報などを発信し、卒業後の学校とのつながりをつくる。

③ 特記事項

継続してスクールカウンセラーの設置は行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

横山委員（美容科）

高校でも専門学校との連携を強化し、出張授業等積極的に関わっていきたいと考えている。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

入学者数の増加により、1クラスの人数編成が多くなってきているため、教育上の教室環境が変化してきている。クラス数も増加が予想されるため、教室の稼働の仕方に工夫が必要となる。

海外研修が再開されており、今までよりも研修が充実しているため、生徒への周知を的確に行う必要がある。防災対策としては、簡易的な避難訓練のみの実施のため、現状の災害状況を鑑み、適正な内容にすること、備蓄品の確保が必要がある。

② 今後の改善方策

教育上の教室環境確保のため、移動教室への変更と、それに伴うロッカーの配置を変更する。

防災対策については、全教職員の避難経路の周知、実際の避難訓練、防災訓練、AED の使い方の講習を行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

横山委員(美容科)

ここ数年で災害発生率も高くなり、学校での安全確保や対応方法について考えている。高校でも教員向けの災害リテラシー研修(救護者対応方法などを学ぶ研修等)の実施を予定している。

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

近隣に新設学校が設置されたため、さらに東京23区や多摩地区外の高校生の来校が減少している。
また、地区での学校認知度が低いため、適正な学生募集を継続することが必要となる。

② 今後の改善方策

SNSでの学校の魅力の打ち出しを継続することと、通常のオープンキャンパス以外に、部活やアルバイト等でオープンキャンパスに来校できない高校生に向けた、学校見学や体験ができる工夫を行う

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

新井委員（美容科）

立川に美容学校があるという認識は以前よりは増えているが、浸透までにはいっていないように感じる。
立川で行われるイベントに参加していくことで認知はより増すのではないかなと思う。

小又委員（美容科）

立川駅エリアのサロンの認知は多いと思う。専門学校と接点を持ちたいというサロンの方の声もいただいているので認知が上がっていると思う。

横山委員（美容科）

高校での進路指導では1校で決めることの不安感はある。通常はいくつかの学校を見比べよう指導している。
地区高校への参画ができていないため、今後は参画について検討をしているところである。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	
自己評価結果を公開しているか	

① 課題

今後も継続した法令遵守が求められる。

② 今後の改善方策

法令遵守に対する啓蒙を図りコンプライアンスや個人情報など法令の正しい知識を教職員に伝えていく。

③ 特記事項

全体会議、教務会議にて定期的にハラスメント研修やコンプライアンス研修を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

産学連携による地域貢献や、企業連携による社会貢献はボランティアとして行っているが、いまだ数は少ない状況となっている。

また、提供する技術力に懸念があるため、対外のお客様が満足するような技術力を習得するために、技術アップを図る授業運営や練習会が必要となる。

② 今後の改善方策

企業様からのボランティア依頼については、例年依頼をいただいているものもあるため、今後も積極的に参加をしていくが、地域連携の依頼や、イベントの機会が少ない傾向であるため、地区の町内会等に参加をし、地域貢献に携われるイベントに積極的に参加をしていく。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

新井委員（美容科）

商店街に加入することで立川市民祭などいろんなイベントに参加できる。そのような場所で専門学校が出店することは、御校を知っていただくためにも、生徒の学びのためにも大きなメリットになると思う。

市内のイベントはボランティアを募集しており、高校生や専門学生で募集がすぐ埋まってしまうと聞く。高校の先生によると、今の学生は外部の人と触れ合うことが多くないため、積極的に参加を促していると聞く。

写真が好きな学生がお祭りの写真撮影のボランティアをしていることもあるため、特技をボランティアの場面で生かしていることもあるようだ。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の受け入れは行っているが入学には至っていない状況。

② 今後の改善方策

留学生向け説明会の実施や、姉妹校である日本語学校との提携の強化を検討する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

小又委員(美容科)

外国人美容師さんは増えているが、まだ数としては多くはない。(働いている人の中ではパートが多い)

海外と比較しても日本の美容技術は高く、アジアを視野にビジネスをしている人も多い。

また、大手サロンでは海外の方を招いてヘアショーを行っている。日本の技術を世界へ浸透させようという風潮はあると思う。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

昨年度を振り返り、地道な広報活動の成果があり入学者増加につながったことや、在校生の退学率が低下したこと等、広報・教務については良い結果が残せたように感じている。一方で、就職については課題を感じるところがあった。今年度は外部企業との連携強化やコンテスト等の積極的参加を促し、学校で学んだことを生かす場の提供にも力を入れていきたい。また、地域に根付いた専門学校として、地域イベントにも参加をし、学校の認知度をより増やしていきたい。